

# 情報可視化モデルに基づくがん情報の品質評価

岡 義朗

竹内 法広

医療法人沖繩徳洲会 千葉徳洲会病院

## 1. 緒言

情報について議論する時に避けられないのが、その量と品質である。現実世界において様々な情報が内在しているが、その中から可視化されるがん情報について品質評価を行う。

## 2. 情報可視化モデル

図1は、情報を可視化するプロセスを示した情報可視化モデルの1つである。認知的空間と推論空間の2つの空間で非同期にプロセスが実行される。認知的空間においては、

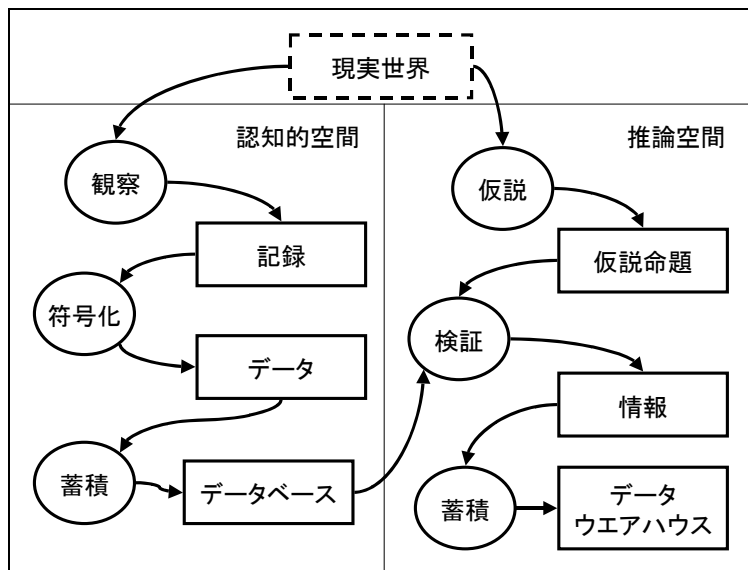


図1 情報可視化モデル

事象を観察して記録し、記録した事象を符号化し、データベースに蓄積する。推論空間においては、仮説から仮説命題を提起し、データベースを使って検証する。検証した結果は、可視化された情報となり、最終的にデータウェアハウスへ蓄積され知識の素となる。

## 3. 情報可視化モデルに基づくがん情報の品質評価

徳洲会グループ全体ではがん情報として、がん登録情報(患者情報)と、プロトコル情報(診療情報)を重点的に管理しているが、特にがん登録情報については、下記の取り組みを行い量と品質の確保に努めている。

- (1) 観察 … がん登録士の育成、がんクラークの採用と教育、標準項目の採用
- (2) 符号化 … 標準化コード(ICD-0等使用)、がん登録ツールを活用し品質チェック
- (3) 蓄積 … 統一形式を採用し、各病院施設から本部にデータを集約
- (4) 仮説/検証 … 統計的手法、ITツールの活用

観察プロセスは、全体の品質を左右する最重要プロセスであり、病理医の診断情報はもちろん、各部門からの情報収集に力を入れている。

## 4. 結言

- (1) 情報可視化モデルの1つを示した。
- (2) 情報可視化モデルに基づいてがん情報の品質を評価した。